

編集後記

本号の特集「無人観測ロボット」はいかがだったでしょうか？惑星科学を研究する者にとってとっつきにくい分野かとは思われますが、惑星探査を念頭においてみた場合には決して他所様のことではありません。火星で無人のローバーが駆け回り多大な貢献をなしていることは周知の事実です。記事を読んでいただくとお分かりのとおり、ローバーをはじめ移動型の無人観測ロボットの開発はそう簡単なものではないようです。けれどもその分チャレンジングで面白く、将来にむけて十分可能性が感じられたのではないのでしょうか？私が籍を置く千葉工業大学にも、未来ロボット技術研究

センター(略称 fuRo, ヒューロと発音します)が存在し、我が惑星探査研究センターの上階でまばゆい成果を上げています。この二つのセンターがコラボをすればきっと面白くなるだろうと期待し、じわじわと仲良くなりつつあります。直近では、東京スカイツリーに隣接するイーストタワー8階にてこの二つのセンターを中心とした千葉工業大学のブースが開設されました。「ロボット、かっこいいー、かわいいー」という歓声が上がっていることでしょう。えっ？惑星探査？きつとかっこいいはずです！みなさん、ぜひ足を運んでみてください。